

# SDGs を取り入れた事業計画書

## 1 企業・事業概要

### ① 企業概要と理念

当社は地域に根差した食品スーパーである。大手のFCとは異なり、地域とのつながりを重視し 40 年以上経営している。企業理念である「地域に根差し多くの人へ「食」を提供することで幸せを創造する」は、地域社会と共に歩んでいくこと、地域住民の健康を下支えし、地域の持続的な発展に貢献すると考えるSDGsの考え方に合致している。

### ② SDGs事業の概要

本事業を取り組む背景として、以下の3点である。

1. 当社は長年地域の住民や農家と一緒に歩んできたが、最近では馴染みの顧客が減少し、客単価も落ちてきている。かつては、地域の住民と会話することで正確なニーズを掴んで商品をそろえていたが、地域の住環境が変化したことで、顧客ニーズが不透明となり、かつての顧客との強固な関係が途切れてしまった。
2. 上記顧客との関係性が強固でなくなったことで、供給者である農家とも疎遠になってしまった。また昨今、農家が高齢化していることで、安定的な野菜等を供給できなくなってきた。
3. 食品残渣(廃棄物)は年間数万トン排出され、需要を予測しても一定の食品残渣は出てしまい、廃棄コストだけでも多額なので、それをいかに活用するか従業員から声が上がっている。

このような背景を踏まえて、本事業は食品廃棄物の削減を行うとともに廃棄物の利活用を進める。廃棄物の利活用の1つ目が、廃棄物を肥料にすることである。この肥料を農家に安価で提供し、その農家は有機野菜を栽培し、その野菜を当社で買い取り、顧客ニーズに沿った野菜を販売する地域循環のコミュニティを創出する。また、このモデルにより既存の農家以外に新規就農者の参入も促し、育成も実施する。

2つ目が廃棄物を電力エネルギーに変えることである。電力エネルギーに変えることで廃棄コスト以上のリターンが見込め、環境にも配慮した経営を行う。

## 2 SDGsとの紐づけ

### ① 具体的な取組

本事業の取組をSDGsのゴールに紐づけると下記になる。

取組① 地域コミュニティの創出と農家の育成	⇒	結果 地場の有機野菜を消費者に届ける	⇒	事業成果 消費者の安心・安全の要請に応じたトレーサビリティの確立	⇒	中長期的な影響① 安心・安全な食品をいつでも購入できることで集客や顧客満足度の向上につながる	SDGs ゴール 2
取組② 食品残渣(廃棄物)を農産物の肥料として農家に活用してもらう	⇒	結果 農業者の有機野菜栽培への負担を軽減する	⇒	事業成果 有機野菜のバリエーションを増やす	⇒	中長期的な影響② 農業生産における環境負荷を軽減する(化学肥料に頼らない)	SDGs ゴール 3
取組③ 食品廃棄物のからクリーンで持続可能なエネルギーを生み出す	⇒	結果 持続可能なエネルギーにより電力消費量の削減(自社利用〇〇%)	⇒	事業成果 再生可能エネルギー比率向上に貢献	⇒	中長期的な影響③ 企業価値向上及びステークホルダーの満足度向上	SDGs ゴール 7

## ② 社会的なリターン

特に社会的なリターンについては、取組②では、化学肥料を伴わない農産物を栽培することで土壌汚染防止につながり、生態バランスの保全につながる。取組③では自社内での再生可能なクリーンなエネルギーを活用することで、温室効果ガスの排出を抑制し、温暖化防止への貢献につながる。2025年には自社エネルギー活用を〇〇%に引き上げ、推定で〇〇kgの二酸化炭素を削減することができる。

## 3 経済的価値創出との関係

本事業の経済的なリターンは、3つの取組による、企業ブランディングの向上と経費削減の2点である。顧客へのアプローチについては、有機野菜を安定して顧客へ提供することで顧客ニーズとマッチした商品を展開することが可能になり、企業ブランドが向上する。顧客の多くは店舗付近の地域住民だったが、大手スーパーとは異なった商品を展開することで差別化を図り、店舗の商圏外からも顧客が流入すると考えられる。

経費削減となる勘定科目は、電力費及び廃棄物処理費である。再生可能エネルギーの自社活用を〇〇%とした場合、年間電力費を〇〇万円削減することができる。削減した原資は新たな事業の投資や、賞与等により従業員に還元することで、積極的に従業員の参加を促していきたい。

## 4 事業展開(スケジュール)

### ① 全体のスケジュール

各取組をスケジュールに当てはめると下表ようになる。最優先事項である取組②については2020年12月から実施する。取組②についての責任者は■■、担当者は☆☆である。■■は複数の店長経験者であり、食品残渣(廃棄物)量について把握しており、SDGsに関心をもっている。また、取組①については2021年4月から実施する。取組①についての責任者は〇〇であり、△△は3店舗の青果を担当しており、農家とのパイプもあることから担当者に出した。

	2020年		2021年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
取組①													
取組②													
取組③													

### ② 各取組の実行者一覧

項目	取組の概要	責任者・担当者	
		責任者	担当者
取組①	地域コミュニティの創出と農家の育成	〇〇	△△
取組②	食品残渣(廃棄物)を農産物の肥料として農家に活用してもらう	■■	☆☆
取組③	食品廃棄物からクリーンで持続可能なエネルギーを生み出す	△△	□□